

熱帯林のカミキリムシ (7)

榎原 寛

アジアのカミキリムシ (5) シロスジカミキリ族 (2) シロスジカミキリ属 (2)

はじめに

前号 (榎原, 2009) ではアジアのシロスジカミキリ族 Tribe Batocerini 中のシロスジカミキリ属 Genus *Batocera* のうち 18 種の紹介を行った。しかし、実際は 19 種であった。これは④ *B. strandi* の所に、オオシロスジカミキリの解説を分けずに入れたことによる。さらに図 2 の *B. tigris* は *B. rufomaculata*, 図 7 の *B. rufomaculata* は *B. tigris* である。謹んで、おわび申し上げる。今回も引き続きアジアのシロスジカミキリ属の残り 20 種について紹介を行う。

なお、本項をまとめるにあたり、シロスジカミキリ属の中国産、インドシナ産の標本を貸与して頂いた大林延夫愛媛大学名誉教授に厚く礼を申し上げます。

1. シロスジカミキリ Batocerini 族

1) アジアのシロスジカミキリ属 (前号に続く)

- ① *Batocera andamana* : 1878 年に Thomson が記載。アンダマン諸島 (Breuning, 1962 ; Gilmour and Dibb, 1948) に分布。前号で紹介した *B. rufomaculata* に近縁で Gilmour and Dibb (1948) は *rufomaculata* の変種としたが、Breuning (1962) により再び種に昇格させられた。
- ② *B. gigas* (写真 1) : 1819 年に Drapiez が記

載。ジャワ (Breuning, 1962 ; Gilmour and Dibb, 1948 ; Rigout, 1981) に分布。食樹として *Ficus* spp. が知られている (Dammerman, 1919 ; Duffy, 1968)。

- ③ *B. timorlautensis* : 1897 年に Heller が記載。インドネシアの Timorlaut 島の特産種 (Breuning, 1962 ; Gilmour and Dibb, 1948)。
- ④ *B. celebiana* : 1858 年に Thomson が記載。インドネシアのスラウェシ、モルッカ諸島、サンギール諸島、Kalidupa 島、ビリトン島、ジャワに分布 (Breuning, 1962 ; Rigout, 1981)。変種として *metallescens* (スラウェシ), *eurydice* (サンギール諸島, ジャワ), *biflavomaculata* (サンギール諸島), *bivittata* (サンギール諸島), *tucana* (Kalidupa 島), *obliqua* (モルッカ諸島), *turitubercculata* (ビリトン島) が知られている。前号で述べたボルネオ、スマトラ、半島マレーシアに分布する *B. thomsoni* に近縁である。
- ⑤ *B. parryi* (写真 2) : 1845 年に Hope が記載。スマトラ、ジャワ、本種がミャンマー、タイ、ラオス、インド、ベトナムに分布 (Breuning, 1962 ; Ek-Amnuay, 2002 ; Rigout, 1981 ; Rondon and Breuning, 1970)。変種として *guttata* (スマトラ), *fabricii* (ジャワ), *bimaculata* (ジャワ), *immaculata* (ジャワ), *narada* (ベトナム) が知られる。

Hiroshi Makihara : Longicorn Beetles in Tropical Forest (7) Longicorn Beetles in Asia (5) Tribe Batocerini (2) Genus *Batocera* (2)
(独)森林総合研究所



写真 1 *Batocera gigas*, ♀, 西部ジャワ産, 50 mm



写真 3 *Batocera victoriana*, ♀, 南スマトラ産, 60 mm



写真 2 *Batocera parryi*, ♀, 西部ジャワ産, 体長 50 mm

- ⑥ *B. breuningi* : 1948 年に Gilmour が記載。ベトナムに分布 (Gilmour, 1948 ; Rigout, 1981)。
- ⑦ *B. bruyini* : 1880 年に Lansberge が記載。インドネシアのサンギール島に分布 (Rigout, 1981)。次種 *B. enganensis* によく似ているが、本種は前胸背に一對のはっきりしたオレンジ紋を持つので識別はやさしい。
- ⑧ *B. enganensis* : 1907 年に Gahan が記載。インドネシアのエンガノ島とスマトラに分布 (Rigout, 1981)。
- ⑨ *B. rosenbergi* : 1866 年に Kaup が記載。インドネシアのフローレス島, スンバワ島, Lomblen 島に分布 (Gilmour and Dibb, 1948)。変種として *sumbawana* (スンバワ島), *lomblensis* (Lomblen 島) が知られる。
- ⑩ *B. sumbaensis* : 1972 年に Franz が記載。インドネシアのスンバワ島に分布 (Rigout,

1981)。

- ⑪ *B. victoriana* (写真 3) : 1856 年に Thomson が記載 ; 半島マレーシア, ボルネオ, スマトラ, 北ベトナムに分布 (Rigout, 1981)。
- ⑫ *B. horsfieldi* (写真 4) : 1839 年に Hope が記載。本種と次種シロスジカミキリ *B. lineolata* とは後述のように形態的に酷似しており, 種の関係は微妙である。変種として *variecollis* (ブータン), *flavicans* (シッキム), *kuntzeni* (ベトナム, 中国四川省) が知られる (Gilmour and Dibb, 1948)。しかし, *variecollis* は台湾の Auping (Anping の間違い) からシロスジカミキリの変種として, 1925 年に Schwarzer が記載したものである。つまり, Gilmour and Dibb (1948) は台湾から記載されたシロスジカミキリの変種がブータンの *B. horsfieldi* と同じものだとしたのである。しかも, 台湾の分布は無視している。このように *B. horsfieldi* の分類はかなり混乱している。この混乱を助長したのが, Duffy (1968) であり, ミャンマー, 中国, 台湾, インド (アッサム, パンジャブ, 西ベンガル, ウッタールプラデッシュ), ベトナム, 日本に分布するとし, シロスジカミキリはミャンマー, 中国 (浙江省, 福建省, 江蘇省, 広西省, 広東省), 台湾, インド (西ベンガル), 日本, 韓国, 濟州島としている。これでは同所的に近縁な 2



写真 4 *Batocera horsfieldi* 左：アッサム産♀，58 mm. 中：ミャンマー産♀，52 mm. 右：タイ産♂，46 mm.



写真 5 シロスジカミキリ 左：中国江西省産♀，52 mm. 中：台湾産♀，47 mm. 右：日本福島県産♀，47 mm.

種類が分布していることになる。しかし、ヒマラヤからインドシナにかけての種が *B. horsfieldi* であるというのが Breuning (1962) の見解であり、筆者もそのように思っている。そこで、分布を整理すると、インド北部、ネパール、ブータン、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナム、中国雲南・四川省 (Breuning, 1962; Ek-Amnuay, 2002; Gilmour and Dibb, 1948; Rigout, 1981; Rondon and Breuning, 1970; Weigel, 2006) の様になる。

食樹としては、分類が混乱しているため、確実に分布しているインド地域で知られているもののみ紹介する。これらは *Alnus nepalensis*, *Juglans regia*, *Quercus incana*, *Salix tetrasperma*, *Trema amboinensis* (Beeson and Bhatia, 1939) である。

- ⑬ シロスジカミキリ *B. lineolata* (写真 5) : 1852 年に Chevrolat が記載。分布については混乱しているが Breuning (1962) は中国、台湾、日本に分布している種をシロスジカミキリとしているので、分布を前種と対比させて整理すると中国 (吉林省、遼寧省、広東省、河北省、陝西省、江蘇省、浙江省、福建省、江西省、湖北省、江西省)、台湾、朝鮮半島、済州島、日本となる。(Breuning, 1962; Gilmour

and Dibb, 1948; Lee, 1982; 楨原, 2007; Rigout, 1981;)。変種として *joannini* (中国), *latealba* (中国), *flachi* (上海, 福建省), *hauseri* (中国南部) が知られる。

前種との区別点は次のようである (Gilmour and Dibb, 1948; Rigout, 1981)。

- シロスジカミキリ：前胸背側部の突起が発達している；上翅基部の点刻が小さく、互いに接近している；体の地色が黒い。
- *B. horsfieldi*：前胸背側部の突起がより発達している；上翅基部の点刻がやや大きく、あまり接近していない；体の地色が灰色である。

しかし、これらの特徴は個体変異まで考慮すると、明確でない。さらに中国・台湾産と日本産の個体を比較すると、複眼の形状が異なっている (写真 6)。そして、日本から記載された *B. catenata* はシロスジカミキリのシノニム扱いとなっている。このように分類学的に整理する必要のある種である。

日本においてシロスジカミキリは重要な害虫であるため、詳しい分布や生態は分かっている。これらについて紹介する。

日本における分布：本州、佐渡、隠岐、猿島、淡路島、宮島、四国、沖の島、九州、対馬、壱岐、平戸島、五島列島、天草諸島、甕島列島、奄美諸島 (奄美大島、徳之島)。このように本州、四国、九州とそ

◎海外森林・林業講座◎

の属島と種子島，屋久島，トカラ列島を除き，奄美大島，徳之島に隔離分布している。

日本における生態：成虫は5月下旬より出現し，8月まで見られる。ブナ科生木の枝の樹皮を後食するが，イヌビワの枝は本来の食樹よりも好んで食べる。夜間，燈火によく飛来してくる。食樹はヤマナラシ，ヤナギ類，クルミ類，ヤシャブシ，ハンノキ，ブナ類，シイ類，カシ類，ナラ類，カシワ，アベマキ，クヌギ，クリ等である。産卵は6～7月に行わ

れ，樹皮に約10mm，横長ひし形のかみ傷をつけ，そこに産卵管を上方に挿入して1卵ずつ産みつける。卵期間は約1週間で，幼虫は初め産卵部位の内樹皮を食害するが，しだいに横に食い広げていく。約1ヶ月後に長円形の幼虫孔を作り，材中に入る。3年目の秋に蛹化し，1～2週間で成虫になり，材内で越冬する。この時の成虫の上翅紋は白色である。産卵後4年目の5月以後に丸い脱出孔を作って外界に飛び出す（楨原，1986；図1）。

ところで中国ではやはりこの2種を区別せず，*horsfieldi*（肅 剛柔編，1991），*lineolata*（王直城編著，2003）としている。そして，中国では1世代2ないし3年とされる（肅 剛柔編，1991）。

⑭ *B. ushijimai*（写真7）：1981年に大林延夫が記載。台湾に分布（Ohbayashi，1981）。前2種に似るが，上翅基部の点刻は弱く，まばらであるので，識別は簡単である。台湾中部の標高1000～1400m付近で4～6月に出現する（周，2004）。しかし，模式標本は中北部の標高300mで採集されているので，森林が尠



写真6 シロスジカミキリ♀の顔，左：台湾産，右：日本産。

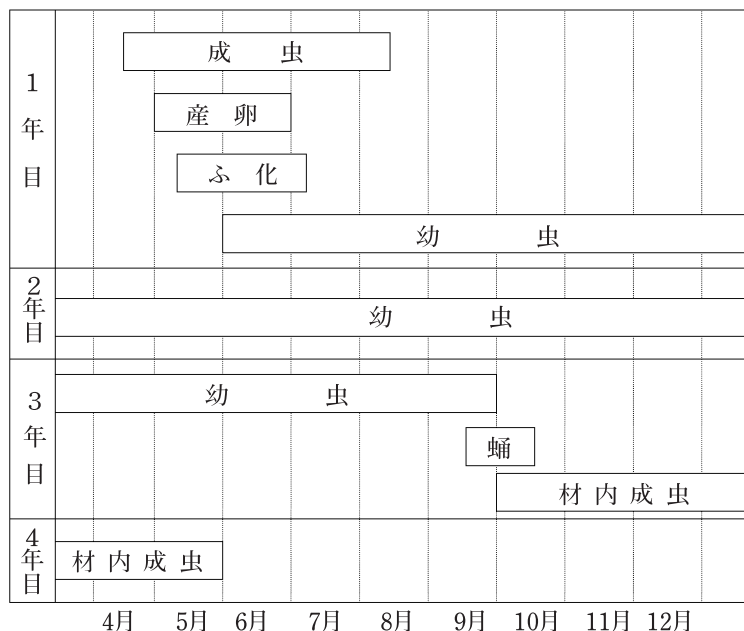


図1 日本産シロスジカミキリ一生の生活経過図



写真 7 *Batocera ushijimai*, 左:台湾産♂, 30 mm.
右:台湾産♀, 50 mm.

達しておれば、低山地でも生息している。

- ⑮ *B. migsominea* : 1948年に Gilmour が記載。ベトナムに分布する (Gilmour, 1948)。
- ⑯ *B. chevrolati* : 1859年に Thomson が記載。東インドに分布 (Gilmour, 1948)。
- ⑰ *B. sentis* : 1758年に Linnaeus が記載。インドに分布 (Rigout, 1981)。
- ⑱ *B. drapiezi* : 1922年に Aurivillius が記載。ジャワ島に分布 (Breuning, 1962)。
- ⑲ *B. aeonigra* : 1859年に Thomson が記載。チモール, PNG, モルッカ諸島, スラウェシに分布。変種として *meleager* (モルッカ諸島のブル島), *occidentalis* (スラウェシ) が知られる。
- ⑳ *B. claudia* : 1866年に Pascoe が記載。産地不明 (Gilmour, 1948)。

前号で 19 種, 今号で 20 種, 併せて 39 種のアジアのシロスジカミキリ属の種を紹介した。何れも体が大きい, 意外と分類学的には整理されていなことがわかるであろう。この点については今後の検討課題である。シロスジカミキリ族には *Megacriodes*, *Microcridodes*, *Abatocera*, *Rosenbergia*, *Apriona* 属が知られ, 害虫となっている種も多く含まれてい

る。しかし, 紙面の都合上, これらの種についての解説は本稿では行わない。

〔参考文献〕 Beeson, C.F.C. and Bhatia, B.M. (1939) On the Biology of the Cerambycidae (Coleopt.). Ind. For. Rec., 5 (1) : 1-235, figs. 1-17, pls. I-VIII. Breuning, S. (1962) Catalogue des Lamiaires du Monde, 6 : 387-459. Dammerman, K.W. (1919) Landbouwdierkunde van Oost-Indie, Tuin-en Boschbouw in Oost-Indie, 368 pp., Amsterdam. Duffy, E.A.J. (1968) A monograph of the immature stages of Oriental Timber Beetles (Cerambycidae). 434 pp., 198 figs., 18 pls., British Mus. (Nat. Hist.), London. Ek-Amnuay, P. (2002) Beetles of Thailand. 407 pp., Amarin Book Ctr. Co. Ltd., Bangkok. Gilmour, E.F. and Dibb, J.R. (1948) Revision of the Batocerini (Coleoptera, Cerambycidae, Lamiinae). Spolia Zeylanica, 25 (1) : 1-121, 10 pls. Lee, S. (1982) Longicorn Beetles of Korea (Coleoptera : Cerambycidae). Insecta Koreana, Series 1, 101 pp. 榎原 寛 (1989) ほだ木を有害するカミキリ類. 林業技術, (107) : 1-14. 榎原 寛 (2007) シロスジカミキリ族. 日本産カミキリムシ (大林延夫・新里達也共編), 605-607, 東海大出版会, 東京. 榎原 寛 (2009) 熱帯林のカミキリムシ (6) アジアのカミキリムシ (4). 海外の森林と林業, 75 : 59-64. Rigout, J. (1981) Batocerini I. The Beetles of the world I, 121pp., 50pls., Sciences Nat. Ohbayashi, N. (1981) New species and Subspecies of Cerambycidae from Japan and Taiwan (Coleoptera). Ent. Rev. Japan, 35 (1/2) : 45-49, figs. 1-4. Rondon, J.A. and Breuning, S. (1970) Lamiines du Laos. Pac. Ins. Mon., (24) : 315-571. 周 文一 (2004) 台湾天牛図鑑. 408pp. 王 直城編著 (2003) 原色中国東北天牛志, 419pp., 吉林科学技術出版, 長春. Weigel, Andreas (2006) Checklist and bibliography of Lonhorn Beetles from Nepal (Insecta : Coleoptera : Cerambycidae). Biodiversitat und Naturschutz im Himalaya II, 495-510. 肅 剛柔編 (1991) 中国森林昆虫, 第 2 版, 1362pp., 中国林業出版, 北京.